壮大な景観
守り未来へ

「千年の草原・阿蘇」を世界の宝に

「阿蘇」の世界文化遺産登録を目指す「阿蘇世界文化遺産登録推進東京シンポジウム」が8月20日、東京都千代田区の全国町村会館ホールで開かれた。熊本県と阿蘇郡市7市町村で構成する阿蘇世界文化遺産登録推進協議会が主催し、今回で3回目。阿蘇が世界文化遺産となる意義や阿蘇の文化的景観の価値などについての講演や、「阿蘇が世界文化遺産になるために必要なこと」をテーマにパネルディスカッションも行われた。会場には約180人が集まり、オンラインでも同時配信された。

［第3回］
阿蘇世界文化遺産登録推進東京シンポジウム

2023年8/20開催

基調講演2

「阿蘇」の文化的景観と世界遺産としての価値

西山 徳明氏
北海道大学教授

昨年、世界遺産の価値の審査をするユネスコの諮問機関ＩＣＯＭＯＳから専門家を招き、阿蘇でワークショップをしました。

その専門家は「草原や火山というのも確かに素晴らしく大切だけれども、人が住む阿蘇カルデラ全体の景観に価値がある」ということを改めて指摘されました。その価値を「文化的景観」として再認識しました。

阿蘇の世界遺産としての価値は複数の属性で説明できると考えています。①カルデラが象徴する外輪火山景観の物理的特徴②草地・森林・集落・田畑をセットとした土地利用形態③野焼きや牛馬の放牧を行うユネスコの諮問機関ＩＣＯＭＯＳから専門家を招き、阿蘇でワークショップをしました。④湧水・伏流水を利用した水系ネットワーク⑤農耕祭事などの伝統的風習―です。これらの価値を、どうやって未来に伝えていくかを考えていくことは「世界遺産登録を推進するための大事な作業なのです。

今、阿蘇の草原は危機にひんしています。草原だけを守ってもその文化的景観を守れませんし、「阿蘇」の価値全てを守っていくためには、さまざまな専門家の皆さんと相談しながら一緒に考えていく必要があります。

基調講演3

阿蘇千年の草原を守るために私たちがすべきこと

高橋 佳孝氏
全国草原再生ネットワーク
代表理事

阿蘇の草原は、実は自然のままの姿ではなく、「野焼き」という人間の営みによってつくられたものです。

草原には牛が放牧され、冬場は舎飼いされる。堆肥は田畑に還元されて、生産された稲わらは牛に食べさせる。牛は田畑を耕し、終わるとまた放牧される。こうした循環型農業は、世界に類を見ない自然と人が織りなす「共創資産」と考えられます。

草原には森林よりも水源涵養力が高いことが明らかになっています。阿蘇は九州北部の6大河川の源流域になっており、水は熊本県民だけでなく福岡市民にも供給されています。最近は草原の炭素固定機能が高いことも注目されています。

草原の維持は難しく、地域に委ねるばかりでいけません。草原保全に頭脳を使っている人たちが利益を得られる生態系サービス支払い（ＰＥＳ）の仕組みづくりも進んでいます。

皆さんも草原由来の和牛・米・野菜を消費したり、ボランティアに参加したり、募金をしたりして、阿蘇の草原を守るために必要なことを意識にやっていただければと思います。

シンポジウムには主催者や登壇者の他、世界文化遺産登録を応援する多くの来賓者が集まり、記念にフォトセッションを行った。
（前列左から）河津修司熊本県議会議員、岩本浩治熊本県議会議員、産山村・市原正文村長、高森町・草村大成町長、熊本県・蒲島郁夫知事、阿蘇市・佐藤義興市長、阿蘇世界文化遺産登録推進九州会議・松尾新吾会長、同・石原進会長代理、小野泰輔衆議院議員
（後列左から）南阿蘇村・吉良清一村長、西原村・吉井誠村長、小国町・渡邉誠次町長、南小国町・髙橋周二町長、全国草原再生ネットワーク・高橋佳孝代表理事、北海道大学・西山徳明教授、阿蘇草原再生千年委員会・坂本正委員長、東海大学・鈴木康夫教授、文化庁・鈴木地平文化財調査官

シンポジウム Symposium

コーディネーター

坂本 正氏
阿蘇草原再生千年委員会委員長
九州大学大学院博士課程修了。経済学博士。熊本学園大商学部長、同理事。同学長などを歴任。阿蘇世界文化遺産登録推進九州会議の会長代理も務める。

パネリスト

高橋 佳孝氏
全国草原再生ネットワーク代表理事
岩手大学大学院農学研究科修士課程修了。農林水産省入省。1990～93年の3年まで一貫して「里山草地の永続的維持管理と利用に関する研究」に従事。

西山 徳明氏
北海道大学教授
京都大学大学院農学研究科博士課程修了。農学博士。農林水産省、国立環境研究所、国立環境研究所地球環境研究センター主任研究員などを経て、現職。

鈴木 康夫氏
東海大学名誉教授
日本大学大学院理工学研究科、地理学専攻・博士後期課程修了。理学博士。専門は地形学。東海大学経営学部教授を経て、現職。

鈴木 地平氏
文化庁文化財調査官
京都大学大学院文学研究科、地理学専攻・博士後期課程修了。文学博士。文部科学省入省。2005年より文化庁記念物課文部科学技官。13年、高崎経済大教授（地域政策）。15年より現職。

坂本 正氏
阿蘇草原再生千年委員会委員長
九州大学大学院博士課程修了。経済学博士。熊本学園大商学部長、同理事。同学長などを歴任。阿蘇世界文化遺産登録推進九州会議の会長代理も務める。

高橋 佳孝氏
全国草原再生ネットワーク代表理事
岩手大学大学院農学研究科修士課程修了。農林水産省入省。1990～93年の3年まで一貫して「里山草地の永続的維持管理と利用に関する研究」に従事。

西山 徳明氏
北海道大学教授
京都大学大学院理学研究科博士課程修了。理学博士。専門は地理学。国立環境研究所地球環境研究センター主任研究員などを経て、現職。

鈴木 康夫氏
東海大学名誉教授
日本大学大学院理工学研究科、地理学専攻・博士後期課程修了。理学博士。専門は地理学。東海大学経営学部教授を経て、現職。

鈴木 地平氏
文化庁文化財調査官
京都大学大学院文学研究科、地理学専攻・博士後期課程修了。文学博士。文部科学省入省。2005年より文化庁記念物課文部科学技官。13年、高崎経済大教授（地域政策）。15年より現職。

高橋 佳孝氏
阿蘇の景観、文化的な価値をどのように守りつないでいくかについて考えていきたいと思います。

鈴木康夫 私は阿蘇に住んでいますが、世界でここでしか見られない唯一無二の景観があります。カルデラ地形の大地に、先人たちが刻んだ歴史そのものが表れています。2年半前、ここは決して豊かな土地ではありませんでした。湿地帯の阿蘇谷を、「石ころだらけの扇状地の南郷谷を、いかにして水田に変えていくか」と考えました。水田開発を可能にしたのは草原です。阿蘇の荒れ地を開拓するには牛や馬の力が必要であり、牛馬を養える場所が草原です。壮大な阿蘇のカルデラ地形の素晴らしさと、そこで暮らしてきた人たちがいかに自然環境を克服しながら素晴らしい景色をつくってきたかに感動します。

坂本氏 阿蘇の火は熊本だけでなく、福岡の生活を支える水がめでもあります。その水が有明海に注ぎ、豊かな水産物を支えていることも最近では分かってきています。阿蘇は熊本の宝だけではなく、九州の宝なのです。時代の流れから、阿蘇にメガソーラー（大規模太陽光発電所）を造ろうという話が出てきています。九州の経済界で構成する阿蘇世界文化遺産登録推進九州会議では阿蘇のメガソーラーを抑制すべきという方針です。世界遺産にふさわしい地形と景観を守り続け、早期の暫定リスト入りを強力に支援するため、九州会議では熊本県外にも九州全域で参加団体を募り、応援団を増やそうと取り組んでいます。

西山氏 阿蘇の文化的景観は、人が住む景観であり、富士山とは決定的に違います。文化財保護法の重要文化的景観の保護制度を使って世界遺産登録を目指す国内初の試みとしての意義もあります。カルデラに住む人々の社会活動と景観維持の両立が大切です。暫定リストの審査度々出ましたが、「暫定リストはユネスコが決めるものでなく、日本政府が決めるものです。暫定リストの掲載は、夢だったものが実現可能なものとなる期間だと考えます。住民たちの意識が変わり、阿蘇に対する思いが醸成されるでしょう。広大な阿蘇に「暫定リスト入りすることで、世界文化遺産登録に向けできることが格段に増えると思います。暫定リスト入りは阿蘇を愛し未来に継承したいと願う国内外の人にとっても大きな力となるでしょう。

鈴木地氏 今日の皆さんの話を聞いて、阿蘇の文化的景観は人の手でつくられた工芸的な景観だということを改めて感じました。ただし、人工的な土地利用だからといって、今もいろいろ手を加えて何をしていいのかというところではなく、周囲と調和することも大切です。ユネスコの世界遺産条約に「遺産は社会的な役割をたせること」と書いてあるように、遺産を守ることによってその地域の人たちが幸せに暮らしやすくならなくてはならないと理解しています。「阿蘇で食べたあのお牛がおいしかったから」「旅先でお世話になった人たちが笑って暮らせるように力を貸したいから」など、応援するきっかけは何でもいいと思います。全国の誰もが「阿蘇」の力になれるのです。

坂本氏 政府に対しては、暫定リスト入りを願いするだけではなく、より新しい文化的な価値を日本政府が手に入れる、国民が手に入れることにもなると言いたいです。将来の千年に向けて我々の遺産を発展させていくことができる決意も熱意も、住民の誇りも生まれると思います。今日のシンポジウムをきっかけに、次のステップに行けることを願います。

坂本氏　九州が一つとなり応援団に　／　鈴木地氏　景観を守り社会的な役割を
鈴木康氏　先人が刻んだ歴史を大切に　／　西山氏　社会活動と景観維持両立を

主催者あいさつ

登録推進へ機運を高めよう

蒲島 郁夫
熊本県知事
（阿蘇世界文化遺産登録推進協議会会長）

これまで熊本県と阿蘇郡市の7市町村では、阿蘇の壮大で美しい景観を人類共通の宝として後世に伝えるべく、世界文化遺産登録を目指し活動してまいりました。

現在、阿蘇は、世界遺産候補である暫定リスト入りの一歩手前に位置しています。暫定リストに記載されれば、世界文化遺産として阿蘇の景観を守っていこうという機運が一気に醸成されます。そのためにも、まずは阿蘇の早期の世界遺産暫定リスト入りを是非実現したいと思います。

私が若い頃に描いた夢の一つが「阿蘇で牧場主になる」ことでした。そのため、阿蘇の美しい景観を守ることには、私自身、並々ならぬ思いがあります。今後も全力で取り組んでまいります。

司会
フリーアナウンサー
宮瀬 茉祐子氏

基調講演1

「阿蘇」が世界文化遺産となる意義

鈴木 地平氏
文化庁文化財調査官

世界遺産は「人類共通の宝だったはずです。でもそこにならない」、あるいは「国際的な協力のもと守っていかなければなくなってしまう、価値が減じてしまう」ものがリスト上、一覧表になっています。

ですから「世界遺産になる」というよりは、「世界遺産リストに記載される」というのが正確な表現になります。

このリストを見れば、人類がどういう歴史をつくり上げてきたか、あるいは地球がどういう営みを積み重ねてきたのかが分かるということもできるでしょう。

「阿蘇」は、住みにくい場所だったからはずすべきでもなく、今や6万人が暮らせるようになったのは、火山や水と上手に付き合い、人とつながり、人口を維持してきた先人たちの工夫があるわけです。元々は人々が暮らしにくい場所で、工夫しながら生きてきたことを証明できると、世界の同じような地域に手本を示すものではないかと思います。熊本という特定の地域での価値付けでなく、世界の人たちにとって阿蘇がどういう意義を持つのかという観点から、さらに価値を磨き上げてPRしていくことが大切です。

主催／阿蘇世界文化遺産登録推進協議会（熊本県・阿蘇市・南小国町・小国町・産山村・高森町・西原村・南阿蘇村）
阿蘇世界文化遺産登録推進オフィシャルサイト
http://www.asosekaibunkaisan.com
シンポジウムのアーカイブ公開中▶
広告